（仮称）富谷市民図書館整備
富谷市デザイン会議

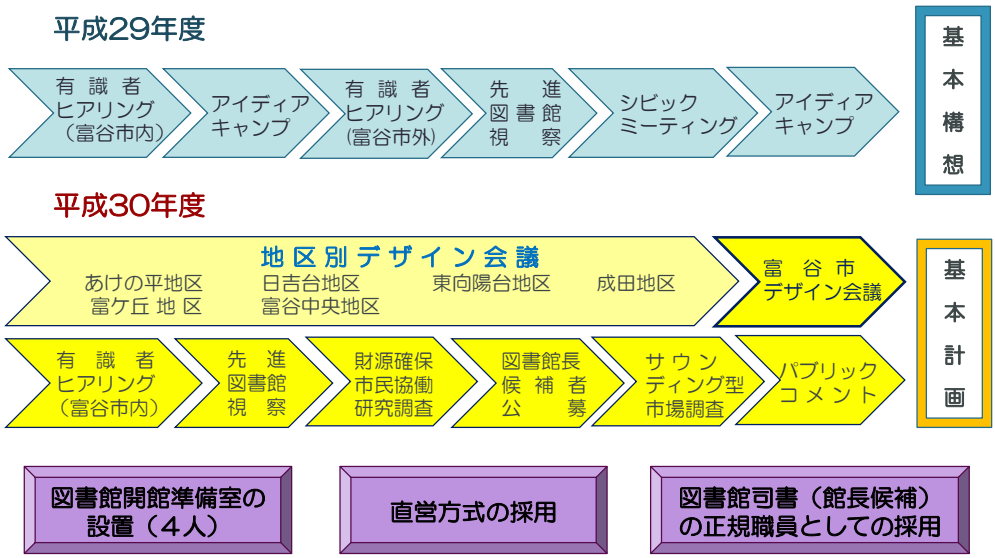
平成31年2月17日（日）13:30～

本日のプログラム

時　間	内　容
13:30～13:35（05分）	富谷市開会のあいさつ、開館準備室紹介
13:35～13:45（10分）	富谷市の基本姿勢と本日の会議について
13:45～14:00（15分）	基本計画（案）の説明
14:00～14:50（50分）	全体ワーク「管理運営計画へ向けての意見交換」
14:50～14:55（05分）	本日の全体ワークのまとめ
14:55～15:00（05分）	富谷市閉会のあいさつ

2

これまでの取り組みについて



3

図書館整備スケジュール

平成29(2017)年度	基本構想策定
平成30(2018)年度	基本計画策定・サウンディング型市場調査
2019 年度	富谷市民図書館基金等開始
	管理運営計画策定・設計プロポーザル
2020 年度	基本設計・実施設計
2021 年度	工事入札・入札
2022 年度	開館

☆市内小中学校等へのエアコン整備を優先施策とすること、東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う、工事関係費及び資材高騰を回避することを理由に、開館年度については、2022年度とする。

4

富谷市の基本姿勢

１　図書館の事業費

２　センター館と分館が一体となった
「ネットワーク型図書館」

３　市民協働でつくりあげる図書館

5

1.図書館の事業費

図書館建設の財源

○　図書館建設の事業費8億円を目指す
- 公的自主財源は５億円、その他３億円の外部資金
  → 将来的な財政負担を考慮したもの

○　外部資金の調達手法
- 企業版ふるさと納税　・ふるさと納税
- ガバメントクラウドファンディング
- クラウドファンディング　・寄附

6

1.図書館の事業費

富谷市民図書館基金

○　目的

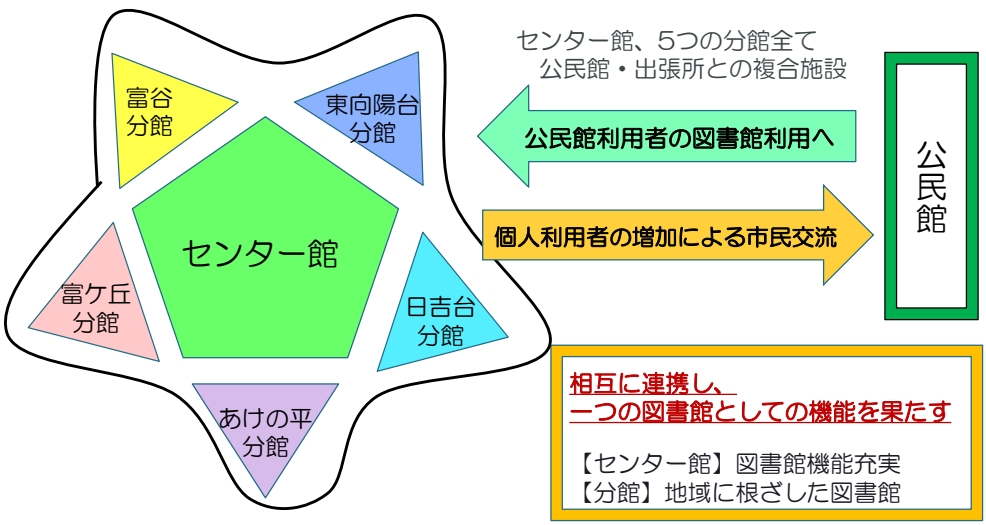
- 外部資金等の適切な管理運営を図り、図書館整備・将来的な運営を円滑に進めるために制定

○　富谷市民図書館基金条例

- 地方自治法第241条第1項の規定による
- 平成31年第1回定例会へ条例案提案

7

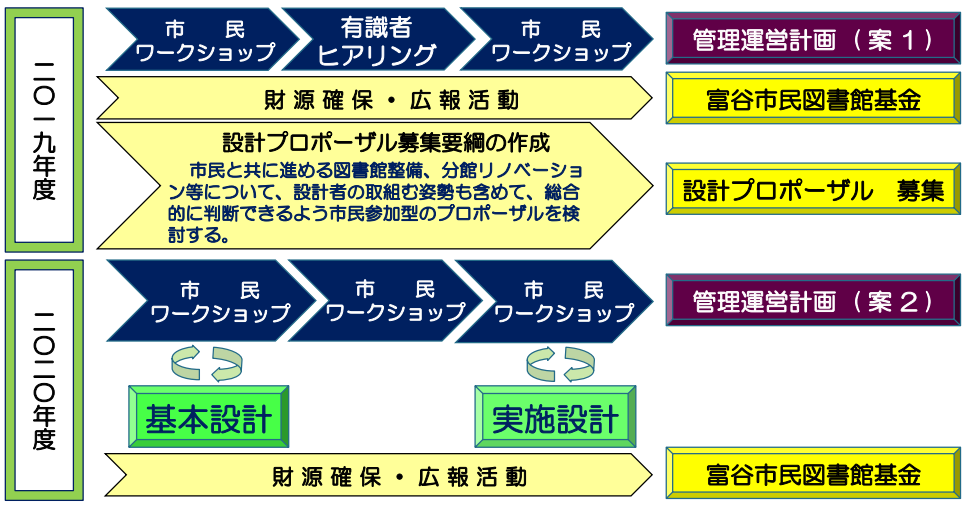
2.センター館と分館が一体となった「ネットワーク型図書館」



8

2.センター館と分館が一体となった「ネットワーク型図書館」

これからの取り組みについて



3.市民協働でつくりあげる図書館

○　これまでの一般的な図書館建設

【設計業者】　設計図・イメージ・デザインを作成

↓

コンペティションにより、よりよい設計図を選択して、
意見交換をしながら、図書館が建設されていく

○　富谷市の図書館建設

【設計業者】　市民協働で設計を進める手法を提案

↓

市民協働で進められる業者をプロポーザルで選定
市民対話の中で設計図を作成し、図書館が建設されていく

本日の会議について

〇基本計画(案)の説明

〇管理運営計画に向けての意見交換

→管理運営計画・基本設計への引き継ぎ事項

- １人だけの意見ではなく多数の意見へ
- 相反する意見があれば、遠慮せずに
- 具体的には来年度・再来年度の協議事項となる

11

本日のプログラム

時　間	内　容
13:30～13:35（05分）	富谷市開会のあいさつ、開館準備室紹介
13:35～13:45（10分）	富谷市の基本姿勢と本日の会議について
13:45～14:00（15分）	基本計画（案）の説明
14:00～14:50（50分）	全体ワーク「管理運営計画へ向けての意見交換」
14:50～14:55（05分）	本日の全体ワークのまとめ
14:55～15:00（05分）	富谷市閉会のあいさつ

12

（仮称）富谷市民図書館
整備基本計画（案）

13

1　富谷市における図書館

2　整備基本方針

14

（1） 図書館の役割

- 子供達が人生をより豊かに生きる力を身に付けていくことへの道標としての役割
- すべての人々に開かれる「知の扉」としての役割
- 安心、安全で心地よく時間を過ごせる「サードプレイス」としての役割

（2） 市の現状と課題

- 公民館図書室のスペース不足、資料不足
- 学校図書館の「調べる学習」サポート資料不足
- 高校生の利用環境が整備されていない
- 富谷市を理解する資料の不足

15

（3） 名　称

富谷市民図書館

■ 後日、愛称については公募し、検討していきたいと考えています。

16

（4）富谷市民図書館の理念

歴史を受け継ぎ、未来をつくる市民の、
市民による、市民のための知の広場

- 市民交流
- 知識のインプット
  知識のアウトプット
- サードプレイス
- レファレンス充実
  問い・疑問の集積
- 市民協働

生涯を通じた学びの場	暮らしを豊かにする場	子供の成長支援の場
コミュニティづくりの場	文化・芸術と出会う場	富谷の魅力発見の場

17

（5）図書館活用のイメージ

子供と子育て世代
ブックスタート
親子読み聞かせ会
子育て情報・資料
子育て情報の共有

小・中学生
自己探求型学習
図書館探検・自学
調べる学習
学校以外の居場所

高校生
自立的な学習
主体的・対話的で深い学びの追求
自学・進路・受験・生き方

大学生
卒業論文・ゼミ研究
キャリア情報センター
カフェでの読書・交流
世代間交流

高齢者
知識の活用・表現
自由な生涯学習
カフェでの読書・交流
世代間交流

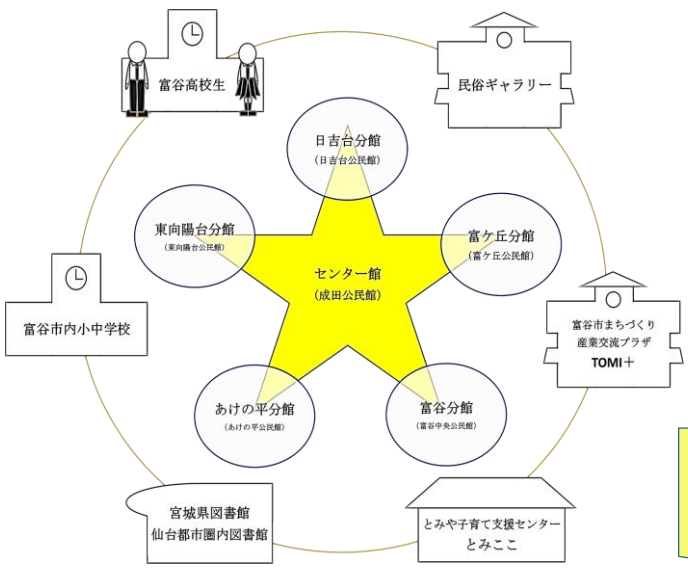
その他
大活字本・録音図書等
地域資料による地域理解
地域住民の活動情報
資格取得・スキルアップ情報

18

3　富谷市民図書館のサービス目標

19

（1）富谷市ネットワーク型図書館の構築



均質なサービス提供

サービス資源の効率的運用

協働

共有

循環

「ひと」「もの」「こと」
のネットワークを強化

20

センター館

- 充実した蔵書・スペースの確保
- 質の高い情報サービスや
  レファレンス機能

新築館＋成田公民館図書室
＋プレイルーム

分館（公民館図書室）

- アクセスが困難な方のための
  サービス
- 資料活用の工夫などセンター館
  と協働し、総体として運営する。

公民館図書室＋プレイルーム
＋学習室を想定

学校・施設

- 図書館システムの統一
- 学校への団体貸出
- 司書の合同研修会
- 市民参加の図書館運営
- 出張図書館・団体貸出

宮城県内図書館

- 相互貸借
- 「学サポセット」の貸出
- 宮城県図書館への配送車巡回
- 職員研修会の開催

21

（2）具体的なサービス目標

■詳細なサービス目標については、
「富谷市民図書館管理運営計画」
の協議の中で決定していきます。

蔵書　将来的に**20万冊**をめざす

有料データベースの整備を進める

知的創造活動で作られた資料の保存

当面、**年間の1人当図書貸出冊数**目標を**4冊**

当面の目標、**登録率40％**、**登録者1人当貸出数10冊**

22

4　富谷市民図書館の建設計画

23

富谷市民図書館の建設計画

規　模

財　　源

自主財源　５億円
外部資金　３億円

富谷市民図書館基金
ガバメントクラウドファウンディング
企業版ふるさと納税

総延床面積　　2,927㎡
成田新築館　　1,500㎡
成田リノベーション分　　約　200㎡
分館リノベーション分　　約1,227㎡

24

富谷市民図書館「センター館」整備方針

センター館

新 築 館

成田公民館
【図書室】
【プレイルーム】

約1500㎡
＋
約200㎡

具体的な機能、配置等
↓ 市民協働
管理運営計画
基本設計　で決定

資料を調べる

憩い・集い・交流する

協議し、高め、発信する

ユニバーサルデザイン

動線の配慮

わかりやすいサイン

情報通信ツール

多様な空間配置

環境負荷・ランニングコスト軽減

耐久性・安全性・デザイン性

25

富谷市民図書館「分館」整備方針

具体的な機能、配置等
↓ 市民協働
管理運営計画
基本設計　で決定

- 地域の身近な図書館として心地良い空間の提供
- センター館へのアクセスが困難な方への図書館サービスの提供

エントランス
交流スペース
（共有の場合あり）

開架スペース
閲覧スペース

子育て
ふれあい
スペース

学びのスペース

※　その他共有スペースとしてトイレ、洗面所などは、公民館のものを使用する。

	分館面積	転用しリノベーションする予定の部屋
富谷分館	287㎡	１階図書室＋２階児童クラブ室
富ケ丘分館	245㎡	１階学習室＋１階プレイルーム＋２階図書室
東向陽台分館	270㎡	１階図書室＋１階世代間交流室＋１階プレイルーム
あけの平分館	190㎡	２階図書室＋２階学習室＋２階プレイルーム
日吉台分館	235㎡	１階図書室＋１階学習室＋１階プレイルーム

26

5 管理運営

27

管理運営

直 営 方 式

民間活力導入の検討
- サービス向上の可能性
- コスト削減の可能性

休館日・開館時間
現在の状況を検討し、サービス計画で示す

貸出条件
全ての方へ利用者カード発行をめざす

貸出点数・期間
点数　５点
期間　２週間
貸出延長　１回のみ

貸出・返却場所
センター館
５つの分館
夜間返却ポスト

業務のシステム化
- 市民図書館・学校図書館の連携を実現する
- システム統合は、柔軟性・拡張性があるものを採用

具体的な内容は、管理運営計画で協議します

28

職員体制

4月1日から図書館長候補として専門性の高い司書が、開館準備室に配属される予定です。

29

6　開館までの準備

30

開館までの準備

管理運営計画策定

- 市民と共に進める図書館整備

図書館の具体的な管理・運営の内容を市民との協議を通して決定

設計者の選定方法

- 市民と共に進める図書館整備

↓

プロポーザル方式の採用

設計の姿勢を含めて総合的に判断

○ 設計者　×設計図・デザイン

※「対話継続型サウンディング調査」による事業の可能性検証を進める。

具体的な機能、配置等
↓ 市民協働
管理運営計画
基本設計　で決定

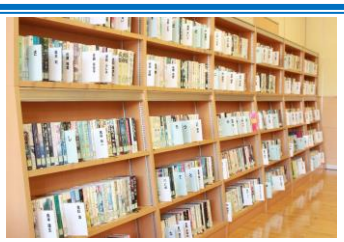
資料の収集・除籍

- 特色ある資料収集
- 地域や郷土資料の収集　⇒　選書の規定、除籍の規定
- 基準に基づいた除籍

31

専門職員の育成

- 研修の充実



市民との協働

- 図書館サポート組織、図書館フレンズ(仮称)の設立
- 富谷市民図書館協議会の設置

財源の確保

- 「富谷市民図書館基金」
- 「企業版ふるさと納税」「ふるさと納税」
- 「ガバメントクラウドファンディング」「クラウドファンディング」

状況により、
柔軟な対応

32

富谷市民図書館整備基本計画(案)

33